

# KDraster コンバート

ラスター/ラスター変換プログラム

# RS3RS



Kernel Computer System  
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部  
〒221-0056  
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル  
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501  
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>



## 製品概要：

様々なラスターデータのフォーマット変換と画像データの加工を行うことができます。  
コマンドライン形式なので、バッチ処理による一括変換やシステムへの組み込みに適しています。

読み込み可能なフォーマット	出力可能なフォーマット
BMP	BMP
CALSG4 (type1, type2 (tiled))	CALSG4 (type1, untiled)
CCRF	EDMICS (MMR, RLC)
DCX	EPSF
EDMICS (MMR, RLC)	FX-MMR (富士ゼロックスラスター)
Exif	GIF
FORMTEK	HP-RTL (非圧縮, Packbits, MMR, MR, MH)
FX-MMR (富士ゼロックスラスター)	IOCA (非圧縮, MMR, IBM-MMR)
GIF	<b>JPEG</b>
GTX (G4)	<b>JPEG 2000</b>
IOCA (非圧縮, MMR, IBM-MMR)	MMR (G4 FAX)
<b>JPEG</b>	MR (G3 FAX)
<b>JPEG 2000</b>	MH (G3 FAX)
MMR (G4 FAX)	MIEL
MR (G3 FAX)	PBM/PGM/PPM
MH (G3 FAX)	<b>PNG</b>
MIEL	PostScript
NSXPRESS (MMR, MR, MH)	<b>PDF</b>
PBM/PGM/PPM	PDF/A-1b
PCX	PDF/X-1a
<b>PNG</b>	Sun Raster (非圧縮, MMR, RLE)
Sun Raster (非圧縮, MMR, MR, MH, RLE)	SVG (JPEG, PNG)
TIFF (非圧縮, Packbits, JPEG, CCITT-1D, MMR, MR, MH, LZW, deflate)	<b>TIFF</b> (非圧縮, Packbits, JPEG, classF, CCITT-1D, MMR, MR, MH, LZW, deflate)
TOSFILE (MMR, MR, MH)	WBMP
WBMP	<b>XDW</b> (DocuWorks) (※)
XBITMAP	XWD (X Window Dump)
<b>XDW</b> (DocuWorks) (※)	
XWD (X Window Dump)	

(※) Windows 版のみ。別途 DocuWorks6~9 が必要です。(8.0.3 を除く)

- 入出力フォーマットの指定、入力フォーマット自動認識
- 解像度の指定、解像度自動変換
- カラー処理
  - ・ カラーモード(2 値、グレースケール、インデックスカラー、RGB、CMYK)の変換
  - ・ 2 値化方法の指定(誤差拡散、パターンディザ、網点など)
  - ・ ドットゲインの補正
  - ・ 16 ビットグレースケールに対応(TIFF, PNG のみ)
  - ・ 任意のビット数への変換
  - ・ 色の反転(全て反転/色相を変えずに明るさのみ反転など)
  - ・ モノクロ画像に任意の色を付けてカラー画像に変換
- 画像処理
  - ・ 図面の線幅を太く/細く
  - ・ 余白を自動検出して切り捨て
  - ・ 2 値画像の孤立点ノイズを消去
  - ・ カラー画像のエッジ強調、ガンマ補正、コントラストの調整
  - ・ 画像の中に特定の色が現れるかどうか検出
- スケーリングなどの変換処理
  - ・ 任意の倍率/ピクセル数/長さ/用紙サイズを指定してスケーリング
  - ・ スケーリングの際の補正方法の指定
  - ・ 縦向き/横向きになるように自動回転
  - ・ 用紙サイズごとに異なる倍率でスケーリング、回転など
  - ・ 余白の追加、センタリング、クリッピング
  - ・ バウンダリ処理(ピクセル数を 8, 16, 32 の倍率に切り上げる)
- マルチページ処理
  - ・ マルチページファイルから任意のページを抜き出す
  - ・ 複数ファイルを結合してマルチページファイルに
  - ・ マルチページファイルを任意のページ数ごとに分割
- 複数イメージの合成
  - ・ イメージを任意の位置に張り付け
  - ・ 上書き/透過などのモードを指定可能
  - ・ マルチページファイルの特定のページのみ、あるいは全ページに合成
  - ・ 同じイメージを一定間隔で繰り返し合成
  - ・ 二つの図面の差分を検出して任意の色で表示
  - ・ 複数イメージを任意の数ごとに並べて合成
- 各フォーマット固有のもの
  - ・ TIFF ファイルの形式(タグ構成、ストリップ分割など)の指定
  - ・ FX-MMR(富士ゼロックススラスタ)の3色カラーモード(白/黒/赤)に対応
  - ・ 透過 PNG 出力、プログレッシブ JPEG 出力
  - ・ JPEG 2000 の圧縮率などの指定
  - ・ PDF のバージョン指定、セキュリティ設定
  - ・ Exif 情報を出力
- MMR 圧縮データの高速変換
- 複数のファイルを一括処理するバッチ機能
- ファイルの情報を出力
  - ・ ファイルのヘッダ情報のみを解析して出力
  - ・ 画像の中の黒ピクセルの割合を求める

#### 動作環境：

- ・ Windows XP / Server 2003 / Vista / Server 2008 / 7 / Server 2008 R2 / 8 / Server 2012 / 8.1 / Server 2012 R2 / 10 / Server 2016
- ・ LINUX(RedHat 8.0 以降, RedHat Enterprise Linux ES3 (x86 系))
- ・ Solaris9 以降 (SPARC)
- ・ HP-UX11i V2 以降
- ・ AIX6.1 以降

#### 価格：

30万円(税抜き)

## 1. 基本操作

RS3RS は、コマンドラインアプリケーションです。通常のコマンドと同じように、コマンドラインから実行したり、バッチファイルやシェルスクリプトに組み込むことができます。

ここでは、直接コマンドラインから入力して実行する場合の、基本的な操作手順を示します。(Windows の場合は、「コマンドプロンプト」で DOS ウィンドウを開いて、その中で実行します)

変換を実行するには、次のような形式でコマンドラインに入力します。

```
実行モジュール名  入力ファイル名  -0出力ファイル名  -各オプション
```

実行例:

```
> RS3RS inputdata.tif -0outputdata.rs -Uuras_in.atr -Zras_out.atr
```

RS3RS	実行モジュール名
inputdata.tif	入力ファイル名
-0	出力ファイル名を指定するオプション。 マイナス記号とアルファベットの「オー」です。 -0 と変換後のファイル名の間には空白を入れないようにします。 変換前のファイル名と変換後のファイル名に同じものを指定することはできません。 オプションについては、「2. オプション」を参照してください。
outputdata.rs	出力ファイル名
-U	入力属性ファイル名を指定するオプション。 属性ファイルについては、「3. 属性ファイル」を参照してください。
-Z	出力属性ファイル名を指定するオプション。 属性ファイルについては、「3. 属性ファイル」を参照してください。

## 2. オプション

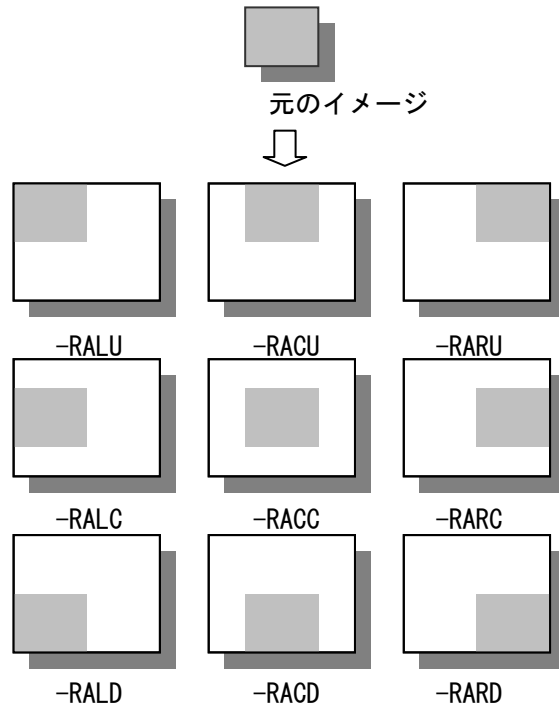
RS3RS には以下のようなオプション引数があります。

- ・オプションには大文字・小文字の区別はありません。
- ・パラメータとの間に空白を入れしないでください。

-N [ <i>page</i> ]	入力がマルチページファイルの場合、処理するページを指定します。 次のような形式で任意のページを指定することができます。 -N0 : 全ページを処理(初期値) -N3 : 3 ページ目のみ処理 -N3-5 : 3 ページから 5 ページまで処理 -N-5 : 1 ページ目から 5 ページまで処理 -N5- : 5 ページ目から最終ページまで処理 -N3, 5 : 3 ページと 5 ページの処理
-M	出力ファイルとして既存のファイルを指定すると、出力フォーマットがマルチページ可能なフォーマットであれば、出力ファイルの最後に新しいページとして入力ファイルを追加されます。
-MFILE [ <i>cols, pages, sep</i> ]	入力がマルチページファイルの場合、指定したページ数毎に別ファイルに分割して出力します。各出力ファイル名は指定した出力ファイル名に番号を付加したものになります。 <i>cols</i> にファイル番号の桁数を、 <i>pages</i> には分割するページ数を、 <i>sep</i> には区切り文字を指定してください。
-A	指定した出力サイズに収まるような最大サイズに、縦横比を維持してスケールリングします。出力サイズは用紙サイズの番号 (-P)、1/100 ミリ単位の長さ (-WM, -HM)、ピクセル数 (-W, -H) のいずれか、または複数を組み合わせて指定します。
-AJ	指定した出力サイズより大きい場合のみ、そのサイズに収まるように、-A オプションと同様の処理によって縮小します。
-W [ <i>width</i> ]	出力水平方向の長さをピクセル数で指定します。
-H [ <i>height</i> ]	出力垂直方向の長さをピクセル数で指定します。
-WM [ <i>width</i> ]	出力水平方向の長さを 1/100mm 単位の値で指定します。
-HM [ <i>height</i> ]	出力垂直方向の長さを 1/100mm 単位の値で指定します。
-SX [ <i>scale_x</i> ]	水平方向のスケール値を指定して拡大/縮小します。
-SY [ <i>scale_y</i> ]	垂直方向のスケール値を指定して拡大/縮小します。
-R [ <i>degrees</i> ]	90 度単位で回転します。指定できる値は 90, 180, 270 です。
-MX	X 軸に対して上下を反転します。
-MY	Y 軸に対して左右を反転します。
-CL [ <i>pixels</i> ]	イメージの左側をクリッピングします。(ピクセル単位)
-CR [ <i>pixels</i> ]	イメージの右側をクリッピングします。(ピクセル単位)
-CT [ <i>pixels</i> ]	イメージの上側をクリッピングします。(ピクセル単位)
-CB [ <i>pixels</i> ]	イメージの下側をクリッピングします。(ピクセル単位)
-CLM [ <i>length</i> ]	イメージの左側をクリッピングします。(1/100mm 単位)
-CRM [ <i>length</i> ]	イメージの右側をクリッピングします。(1/100mm 単位)
-CTM [ <i>length</i> ]	イメージの上側をクリッピングします。(1/100mm 単位)
-CBM [ <i>length</i> ]	イメージの下側をクリッピングします。(1/100mm 単位)
-P [ <i>paper</i> ]	用紙サイズを番号で指定します。 0~ 6: A0~A6 横            20~26: A0~A6 縦 11~15: B1~B5 横          31~35: B1~B5 縦

-RA[L|C|R][T|C|D]

指定したサイズになるように余白の追加やクリッピングが行われます。イメージのサイズよりも小さいサイズを指定すると、はみ出した部分がクリッピングされます。イメージの配置位置は、以下の9通りの中から選択できます。



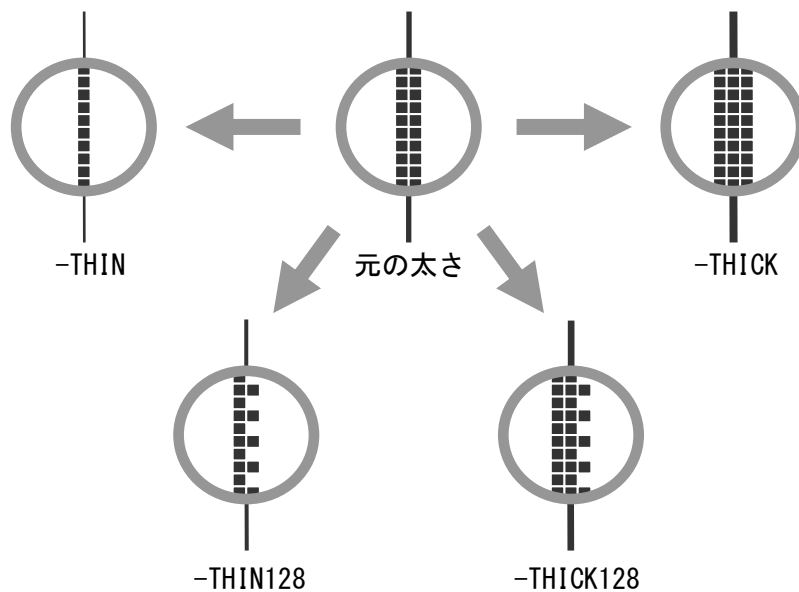
-THIN[level]

すべての線を最大1ピクセル程度細くします。パラメータ(1~255)で太さを調整できます。(2値画像用)

-THICK[level]

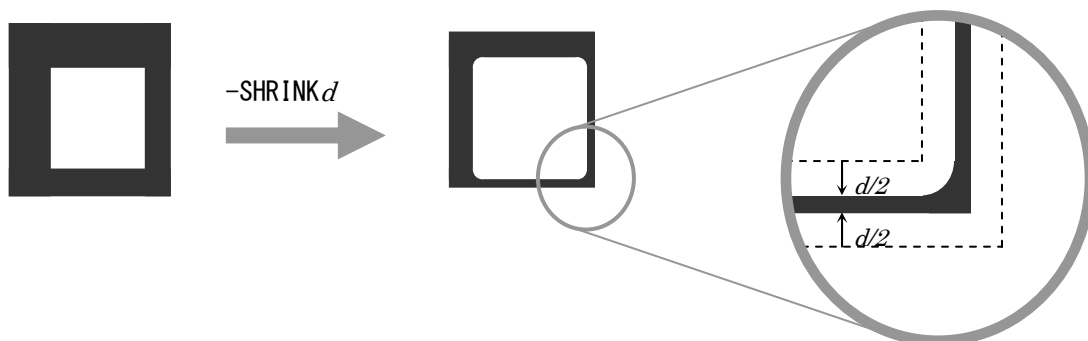
すべての線を最大1ピクセル程度太くします。パラメータ(1~255)で太さを調整できます。(2値画像用)

(例)



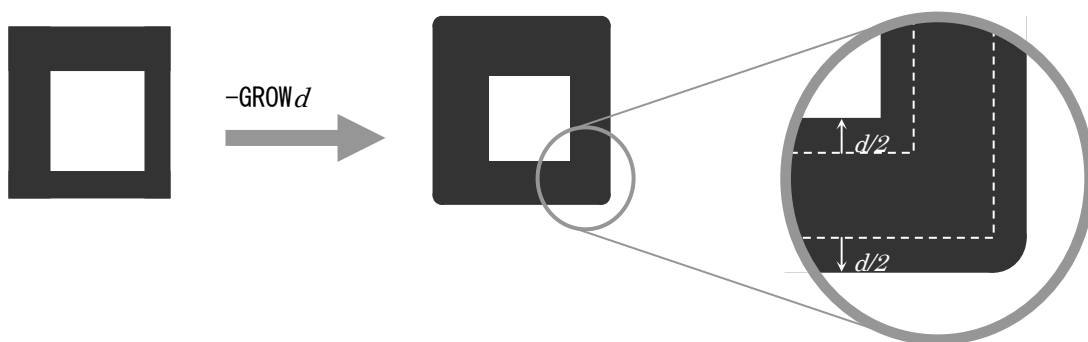
-SHRINK *[pixels]*

指定したピクセル数だけ線幅を細くします。ピクセル数は1ピクセル単位で最大100ピクセルまで指定できます。(2値画像用)



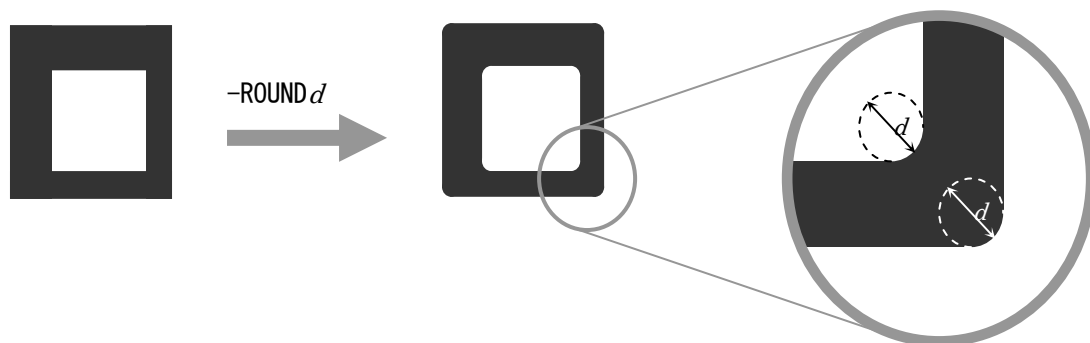
-GROW *[pixels]*

指定したピクセル数だけ線幅を太くします。ピクセル数は1ピクセル単位で最大100ピクセルまで指定できます。(2値画像用)



-ROUND *[pixels]*

線幅を変えずに図形の角を丸めます。角の部分は、概ね指定したピクセル数を直径とする円形に丸められます。直径は1ピクセル単位で最大100ピクセルまで指定できます。(2値画像用)



-NOISE *[pixels]*

スキャナなどで取込んだ画像のノイズを検出し、除去します。除去するノイズの最大サイズを1~6で指定できます。(2値画像用)

- NOISE1 1x1 ピクセル以内の点を除去
- NOISE2 2x2 ピクセル以内の点を除去
- NOISE3 3x3 ピクセル以内の点を除去(デフォルト)
- NOISE4 4x4 ピクセル以内の点を除去
- NOISE5 5x5 ピクセル以内の点を除去
- NOISE6 6x6 ピクセル以内の点を除去

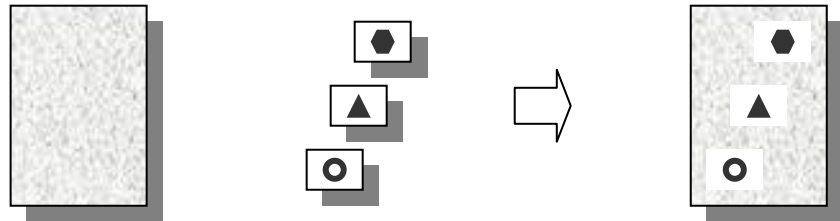
-MERGE [file]

複数イメージの合成処理を行います。*file*は合成するイメージの情報を記述したファイル(合成指示ファイル)のファイル名です。合成処理を行うには、前もってこのファイルをテキストエディタなどで作成しておく必要があります。合成処理には、「既存のイメージに対する合成」および「合成によって新規にイメージを作成」の2種類の方法があります。

<既存のイメージに対する合成>

次のように入力ファイルを指定して実行すると、合成指示ファイルで記述したイメージが、そのファイルのイメージ上に合成されます。

```
RS3RS infile -MERGEmerge_file -Ooutfile
```



入力ファイル

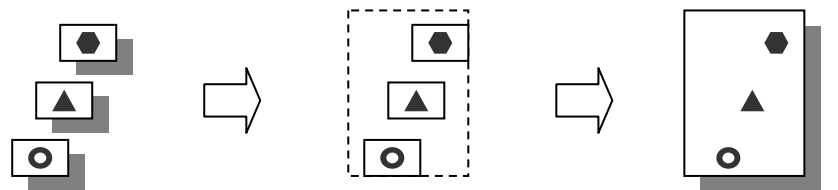
合成するイメージ

出力ファイル

<合成によって新規にイメージを作成>

次のように入力ファイルの指定を省略して実行すると、自動的に生成された空白のイメージ上に合成されます。

```
RS3RS -MERGEmerge_file -Ooutfile
```



合成するイメージ

(背景を自動生成)

出力ファイル

<合成指示ファイルの記述方法>

-MERGE オプションで指定する合成指示ファイルは、合成する各イメージのファイル名と合成処理のオプションを、1行につき1ファイル分ずつ記述したテキストファイルです。

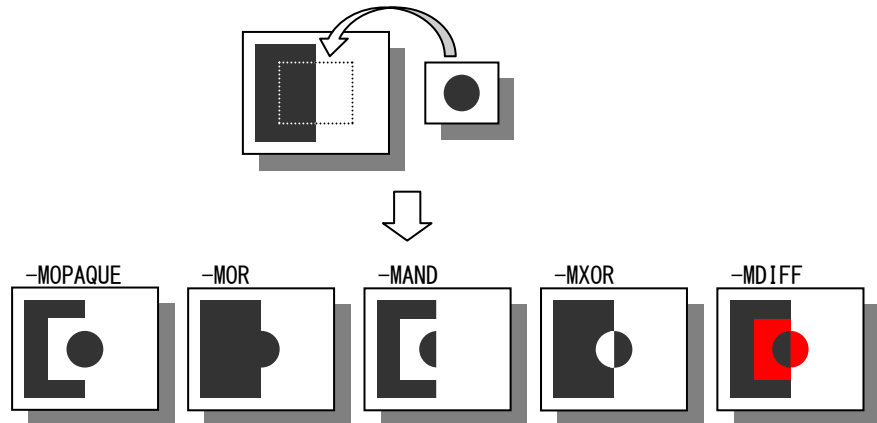
```
ファイル名1 [オプション]  
ファイル名2 [オプション]  
...
```

- ・各ファイル毎に、それぞれ異なるスケーリングや回転などのオプションを指定することができます。(それらの処理を行った後で合成されます。)
- ・各入力ファイルは、合成指示ファイルに記述した通りの順番で合成されます。

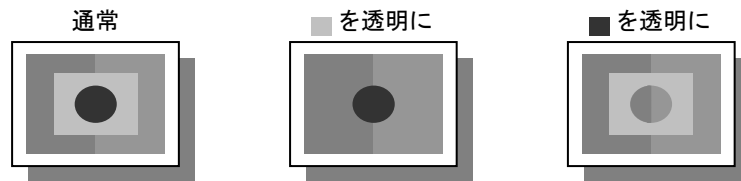
<合成方法の指定>

合成するイメージ毎に以下のようなオプションを指定できます。

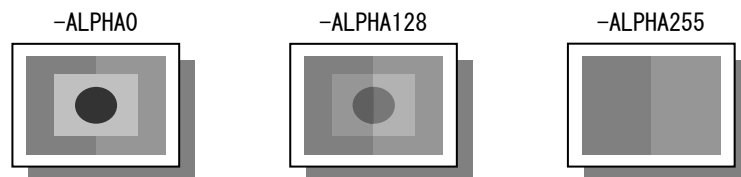
- MOPAQUE 上書きで合成します。
- MOR 色の濃い方を優先して合成します。
- MAND 色の薄い方を優先して合成します。
- MXOR 色の差分を合成後の色とします。同じ色の部分は白になります。
- MDIFF 色が異なっている部分だけを赤で表示します。



- TRANS *[color[/eps]]* 合成するイメージの中の *color* に該当する色のピクセルを透明として扱います。さらに */eps* として 1 以上の値を指定すると、*color* に近い RGB 値を持つ一定範囲の色が透明として扱われます。



- ALPHA *[value]* 合成指示ファイル内で指定すると、合成処理を行う際に、イメージを半透明にして合成します。 *value* で任意の透明度 (0:不透明~255:透明) を指定できます。

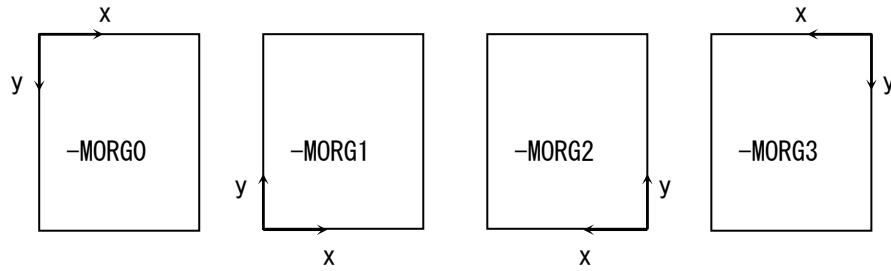


- NM *[page]* 合成処理での、合成先のページを指定します。任意に指定したページに合成、あるいはすべてのページに合成する、という指定ができます。ページ番号の指定方法は-Nと同様です。



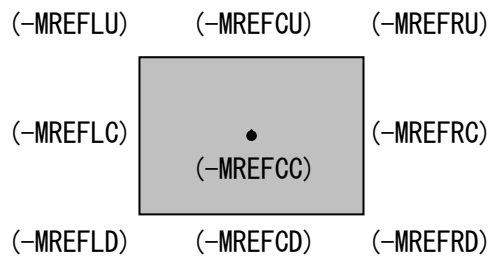
-MORG[origin]

合成位置指定の基準となる原点の位置および座標軸の向きを、下図の4通りのパターンの中から選択することができます。



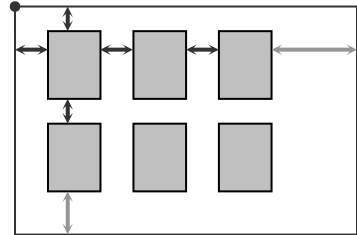
-MREF[L|C|R][U|C|D]

各イメージの合成位置として指定する点を、下図の9通りの中から選択することができます。



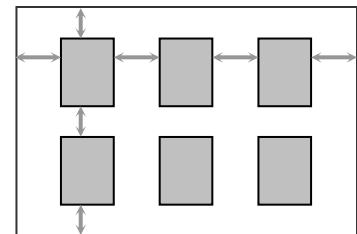
-MREPEAT

イメージが原点側から等間隔で繰り返し配置されます。原点側のマージンとイメージの配置間隔は指定どおりになりますが、通常、最後のマージンはそれよりも大きくなります。



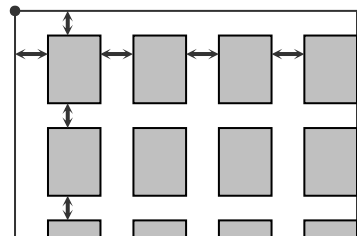
-MREPEAT2

-MREPEATの場合と同じ回数だけ繰り返し合成されますが、上下左右のマージンおよびイメージの配置間隔が均等になるように、マージンを広げる方向で自動的に調整されます。この場合、間隔を厳密に指定することはできませんが、かならず対称的な配置になります。



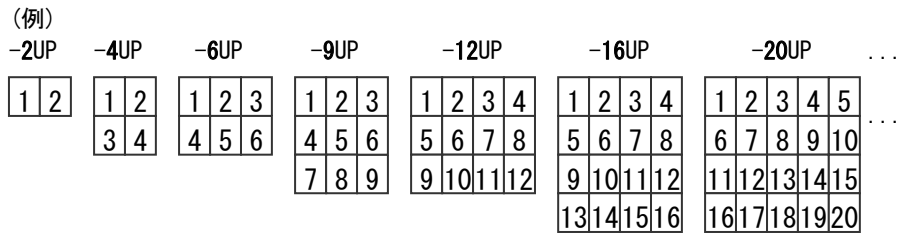
-MREPEAT3

イメージが原点側から等間隔で配置されます。原点側のマージンとイメージの配置間隔は指定どおりになりますが、原点と逆の側についてはマージンを確保せず、用紙の端を超えるまで繰り返し配置されます。指定したマージンよりも大きい間隔ができる部分がないので、用紙全体を完全に覆うことができます。

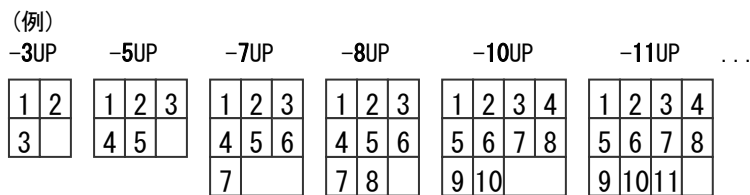


-[number]UP [order] イメージを *number* 個ずつ組み合わせて合成します。並べる順番は *order* で指定できます。

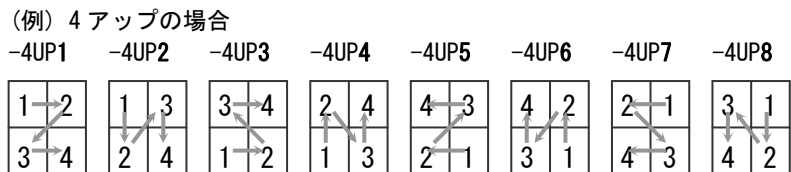
*number* の部分には、組み合わせて 1 ページにするイメージの数を指定します。



指定できる数には特に制限はなく、任意の値を指定することができますが、行数と列数は指定できません。また値によっては空白部分ができる場合があります。



配置の順番には以下の 8 通りがあります。デフォルトでは自動的に順番が決まりますが、順番を明示的に指定する場合は *order* の部分に 1~8 の値を指定してください。



ファイルは合成指示ファイルを使って指定する他に、コマンドラインに指定することもできます。また、この場合に限り、複数の入力ファイルを記述したり、ワイルドカードを使ってファイル名を指定することができます。

- ? 任意の 1 文字を表す
- \* 任意の文字列を表す

-w, -h, -p などのオプションでサイズを指定すると、その範囲内に各イメージが均等に配置されます。サイズを指定しないと、配置やサイズは自動的に計算されます。

-QS [file]

入力ファイルのヘッダ情報だけを取り出して、テキストデータとして *file* に出力します。*file* を省略すると、情報の出力先は標準出力になります。通常は、変換処理を行わずに終了しますが、これと同時に -0 オプションを指定した場合は、さらに通常の変換処理も行われます。  
(例)

```
FORMAT = TIFF
COMPRESSION = MMR
COLOR_MODE = Bilevel
WIDTH = 9952
HEIGHT = 7017
XDPI = 600.000000
YDPI = 600.000000
BIT_ORDER = MSB-first
PAGES = 1
```

-QP [file]

画像に含まれる黒ピクセルの割合を調べて、テキストデータとして出力します。出力される情報は、ページ内の全ピクセルに占める黒ピクセルの割合を%単位で小数点以下2桁まで表したものです。(2値でない画像の場合は、輝度によって2値化した場合に黒になるピクセルの割合になります。)処理の対象が複数ページの場合は、各ページごとの情報が出力されます。

-RIREKI [file]

履歴ファイルを作成して変換結果についての情報を出力します。履歴の内容は、次のような形式になります。

年月日 変換終了時間, 入力ファイル名, 結果 (OK/NG)

(例)

```
2001/07/19 08:39:08, sample1, OK
2001/07/19 08:39:46, sample2, NG
2001/07/19 08:40:05, sample3, OK
2001/07/19 08:42:01, sample4, NG
```

- ・履歴が20000件を超えると、前半の10000件が削除されます。
- ・引数の間違いによるエラーは履歴ファイルに出力されません。

-BATCH [file]

あらかじめ作成しておいたバッチファイル *file* に従って、複数ファイルを一括処理します。

バッチファイルはテキスト形式で、1行につき1件の処理を記述します。

```
入力ファイル1 -o 出力ファイル1 [オプション1]
入力ファイル2 -o 出力ファイル2 [オプション2]
...
```

- ・入力ファイル名でワイルドカード(「\*」など)を使うと、それに該当するファイルすべてについて、アルファベット順で処理されます。
- ・出力ファイル名にワイルドカードを使うと、対応する入力ファイルの拡張子を変更したものが出力ファイル名となります。
- ・下の行をバッチファイルの先頭部分に記述しておく、エラーが発生した時点でバッチ処理が中断されるようになります。

```
$break
```

### 3. 属性ファイル

変換時のパラメータを記述するために、以下のような属性ファイルが用意されています。

- ・ 入力属性ファイル(ras\_in. atr) 主に入力処理に関連したパラメータを記述します。
- ・ 出力属性ファイル(ras\_out. atr) 主に出力処理に関連したパラメータを記述します。

属性ファイルの内容は、以下のような形式のテキストファイルです。

```
キーワード = パラメータ  
キーワード = パラメータ  
...
```

- ・ 先頭が#の行はコメントになります。
- ・ 一つの項目を複数行にわたって記述することはできません。
- ・ 余分な空白や空行は無視されます。
- ・ キーワードには大文字/小文字の区別はありません。

入力属性ファイル(ras\_in. atr)の例:

```
IN_VERSION = ANY  
IN_RESOLUTION = 200  
DPI_INPUT = N  
QUALITY_TYPE = -1  
SIKII_VALUE = 128  
COLOR_QUALITY_TYPE = 1  
COLOR_FILTER = 1  
COLOR_FILTER_DITHER = 1  
DITHER_PITCH = 8  
DITHER_ANGLE = 45  
COLOR_FILTER_DIFF = 128  
CHG_BK_WH = 0  
XDW_OPTION = 0
```

IN_VERSION	入力フォーマット (ANY で自動認識)
IN_RESOLUTION	入力ファイルが解像度情報を持っていないときに適用される解像度 [dpi]
DPI_INPUT	入力ファイルの解像度情報を無視するかどうか (Y/N)
QUALITY_TYPE	2 値画像の拡大/縮小のアルゴリズムを選択 (-1, 0, 1, 2)
SIKII_VALUE	QUALITY_TYPE=2 のときの閾値 (0-255)
COLOR_QUALITY_TYPE	カラー画像の拡大/縮小のアルゴリズムを選択 (-2, -1, 0, 1)
COLOR_FILTER	2 値化処理のアルゴリズムを選択 (0, 1, 2, 3)
COLOR_FILTER_DITHER	網点などの形状を選択 (1, 2, 3)
DITHER_PITCH	網点の間隔 (4-256) [ピクセル]
DITHER_ANGLE	網点の角度 (0-90) [度]
COLOR_FILTER_DIFF	COLOR_FILTER=3 のときの閾値 (0-255)
CHG_BK_WH	色を反転する場合、その方法を選択 (0, 1, 2, 3, 5, 6, 7)
XDW_OPTION	DocuWorks ファイルを変換する際のモード (0, 1, 2, 3)

出力属性ファイル(ras\_out. atr)の例:

```
OUT_VERSION = ANY
OUT_RESOLUTION = 400
DPI_ADJUST = Y
BIT_ORDER = 0
#TIFF_BYTEORDER = I
#TIFF_BYTEORDER = M
TIFF_STRIP = 0
TIFF_OPTION = 0
TIFF_TAGMASK = 0
JPEG_QUALITY = 75
FXR_REDNESS = 128
FXR_REDTYPE = 0
#COLOR_FORMAT = 4
RAS_DEPTH = 0
GAMMA_VALUE = 1.0
DOT_DIAM = 0
GCR_RATIO = 100
CHG_BK_WH = 0
#PAPER_SCALE = 2
OUT_PAPER_A4 = A4
OUT_PAPER_A3 = A3
OUT_PAPER_A2 = A2
OUT_PAPER_A1 = A1
OUT_PAPER_A0 = A0
#PDF_SECURITY_CRYPT_TYPE = 0
#PDF_SECURITY_ATR_MODE = 0
#PDF_SECURITY_PRINT = 0
#PDF_SECURITY_EDIT = 0
#PDF_SECURITY_READER = 0
#XDW_SECURITY = 0
XDW_LARGE = N
```

OUT_VERSION	出力フォーマット (ANY で自動選択)
OUT_RESOLUTION	出力解像度 [dpi] または 0 (解像度を変更しない)
DPI_ADJUST	解像度の変更に合わせてスケーリングを行うか (Y/N)
BIT_ORDER	FAX 圧縮などのビット順を指定 (0, 1)
TIFF_BYTEORDER	TIFF 出力形式 (インテル/モトローラ) の選択 (I/M)
TIFF_STRIP	TIFF ストリップ分割の基準サイズ [バイト] または 0 (分割なし)
TIFF_OPTION	TIFF 出力形式の詳細設定
TIFF_TAGMASK	TIFF 出力時のタグ構成を調整
JPEG_QUALITY	JPEG 圧縮の品質 (0-100)
FXR_REDNESS	FX-Raster で 3 色出力するときの赤の量 (0-255)
FXR_REDTYPE	FX-Raster で 3 色出力するときのモード (0, 1, 2, 3, 4, 5)
COLOR_FORMAT	カラー形式の指定 (0, 1, 2, 3, 4, 5, 6)
RAS_DEPTH	1 ピクセルあたりのビット数 (1-32) または 0 (自動)
GAMMA_VALUE	カラー出力時のガンマ補正值
DOT_DIAM	ドットゲインの補正值 (100-200) または 0 (補正しない)
GCR_RATIO	RGB から CMYK に変換する際の GCR 割合 [%]
PAPER_SCALE	用紙サイズ別に異なる設定で処理するか (0, 1, 2, 3)
OUT_PAPER_*	用紙サイズごとの設定を記述
PDF_SECURITY_*	PDF 出力時のセキュリティ設定
XDW_SECURITY	DocuWorks 出力時のセキュリティ設定
XDW_LARGE	DocuWorks 出力時に制限サイズを超えたら自動縮小するか (Y/N)

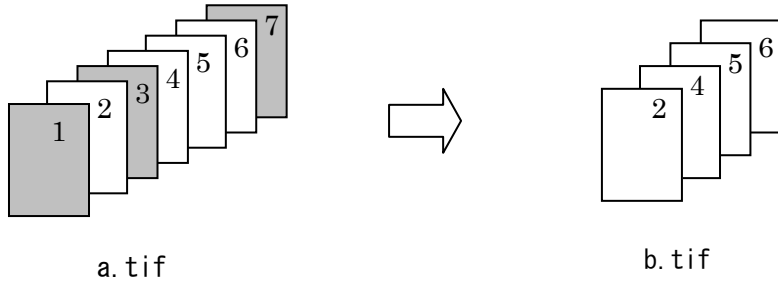
## 4. 実行例

(例 1) マルチページファイルの 2, 4, 5, 6 ページ目を抽出して別のマルチページファイルを作成

以下のような引数を与えて実行すると、処理が行われます。

```
RS3RS a.tif -N2,4-6 -Ob.tif
```

-N で抽出するページを指定しています。



(例 2) マルチページファイル infile のすべてのページに sun.tif を、1 ページ目だけに star.tif を合成し、その結果を outfile に出力します。sun.tif については、前景を赤、背景を透明にします。star.tif についても、背景を透明にします

この場合、次のような内容の合成指示ファイル(mergefile)を作ります。

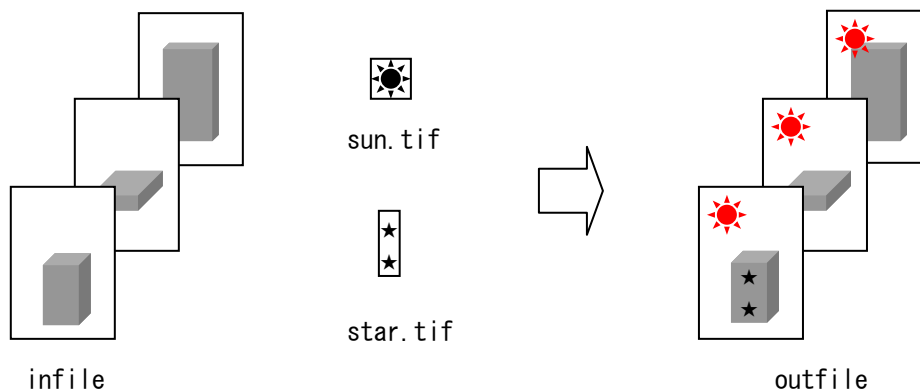
```
sun.tif -MORGO -MREFLU -X100 -Y100 -COLORr/w -TRANSw -MOPAQUE  
star.tif -MORGO -MREFLU -X500 -Y800 -MOR -NM1
```

sun.tif については、-color オプションで赤と白の 2 色のイメージに変換し、さらに -TRANS オプションで白を透明にしています。

star.tif については、-NM オプションで合成先のページを指定しています。-MOR オプションは 2 値イメージの場合、背景を透明にするのと同じ効果があります。

以下のような引数を与えて実行すると、処理が行われます。

```
RS3RS infile -MERGEmergefile -Ooutfile
```



(例3) ?.tif というファイル名のすべての TIFF ファイルを、A4 縦の用紙に 1 ページ当り 4 枚ずつ並べて合成し複数のシングルページファイル out\_?.tif に出力する。イメージが用紙の枠内に収まるように、必要ならば縮小する。

この場合、次のような内容の合成指示ファイル(up.txt)を作ります。

```
?.tif -AJ
```

ワイルドカードを使用し、任意の一文字のファイル名である TIFF ファイルを処理対象としています。

-AJ オプションは出力サイズより大きい場合に、そのサイズに収まるように縮小します。

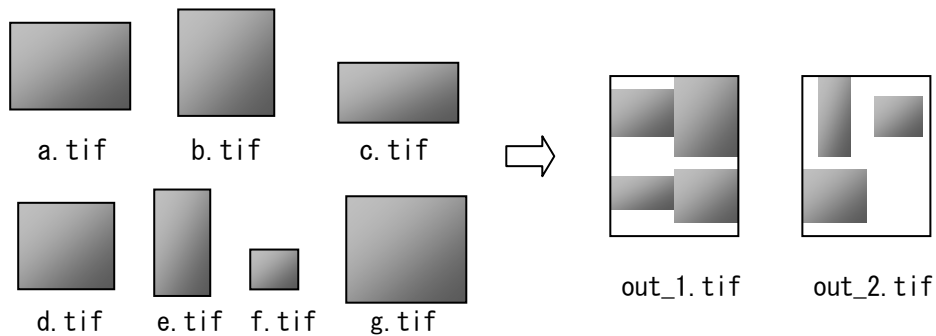
以下のような引数を与えて実行すると、処理が行われます。

```
RS3RS -MERGEup.txt -4up -p24 -MFILE -Oout.tif
```

-4up オプションで 4 ページを組み合わせて、1 ページに合成しています。

-p オプションでページサイズを指定しています。

-MFILE オプションでページ数毎に分割して出力しています。



**機能拡張製品一覧:**

製品名	拡張機能	価格(税抜き)
RSTX3RS	テキスト合成機能追加版	35万円
RSBAR3RS	バーコード+テキスト合成機能追加版	40万円
RSST3RS	スタンプ+テキスト合成機能追加版	45万円
RSDF3RS	比較機能追加版	40万円
RSDV3RS	ラスタ分割機能追加版	50万円
RSDV4RS	ラスタ分割+バーコード+テキスト合成機能追加	60万円
RSDV3FAX	ラスタ分割+FAX専用出力版	40万円
RSCMP3RS	ラスタレイアウト(複数イメージの合成)	40万円
RSMASK3RS	マスク機能追加版	45万円